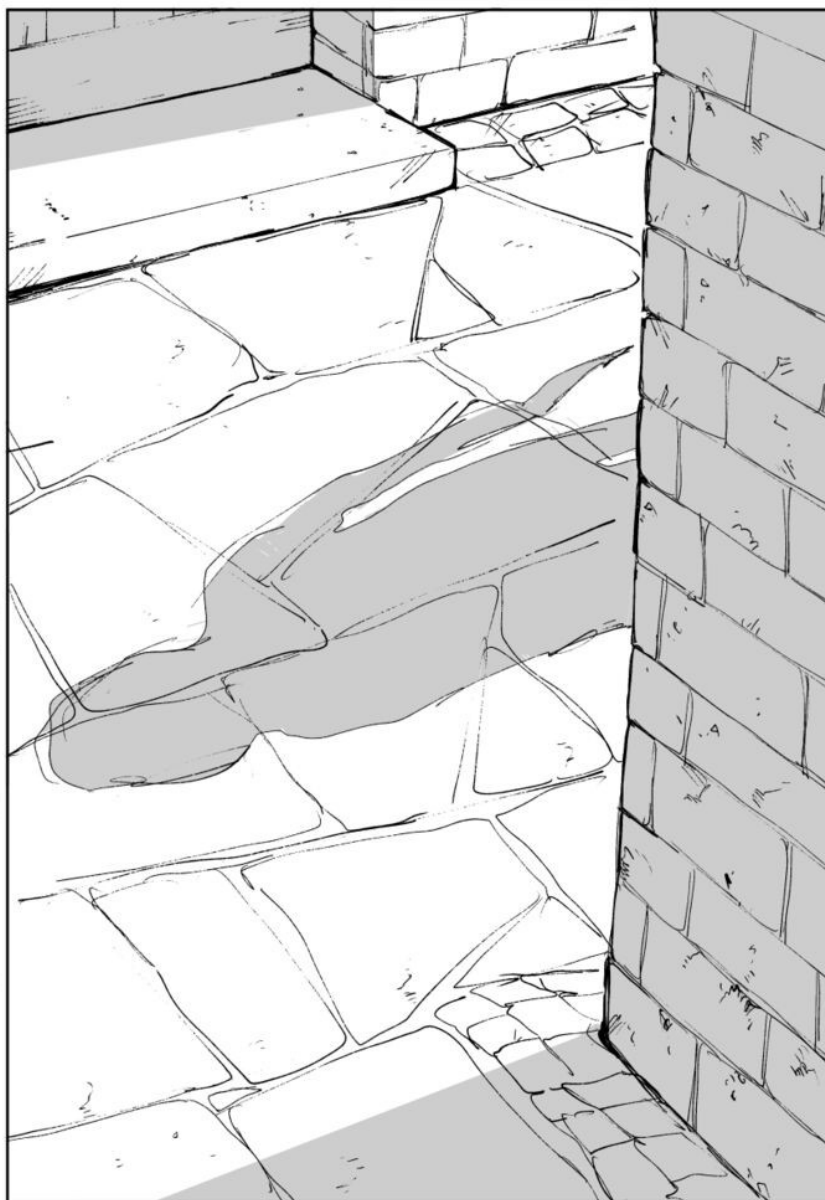
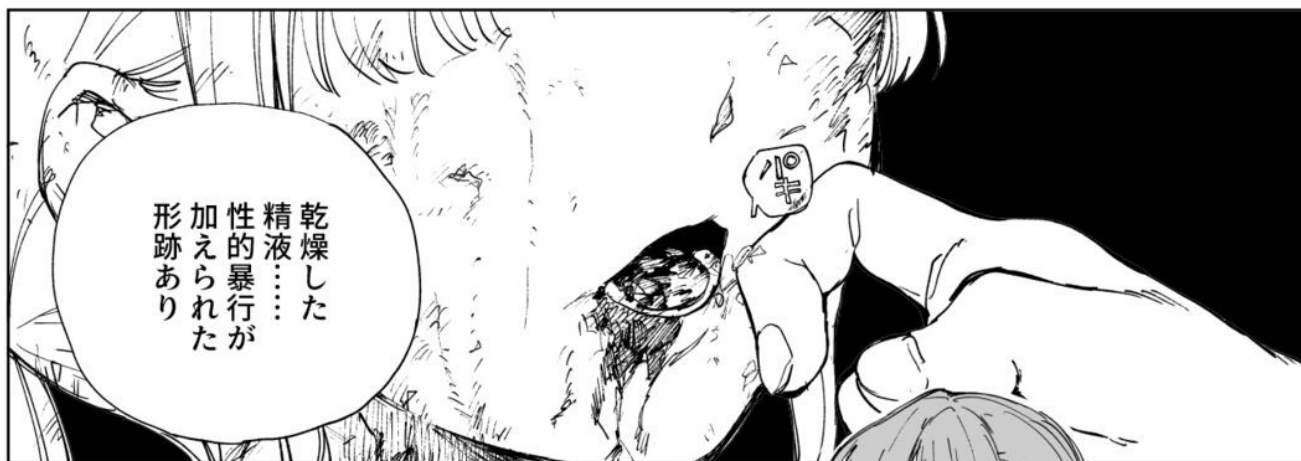




保安官リンドウ
と殺人鬼







乾燥した
精液……
性的暴行が
加えられた
形跡あり



私怨による
犯行ですか……

この事件を追うは
街の治安維持組織に
所属する
保安官たちだった

《州立保安機関
イサルゴ地区支部長》
リンドウ

《州立保安機関
イサルゴ地区
支部所属》
ナヤ



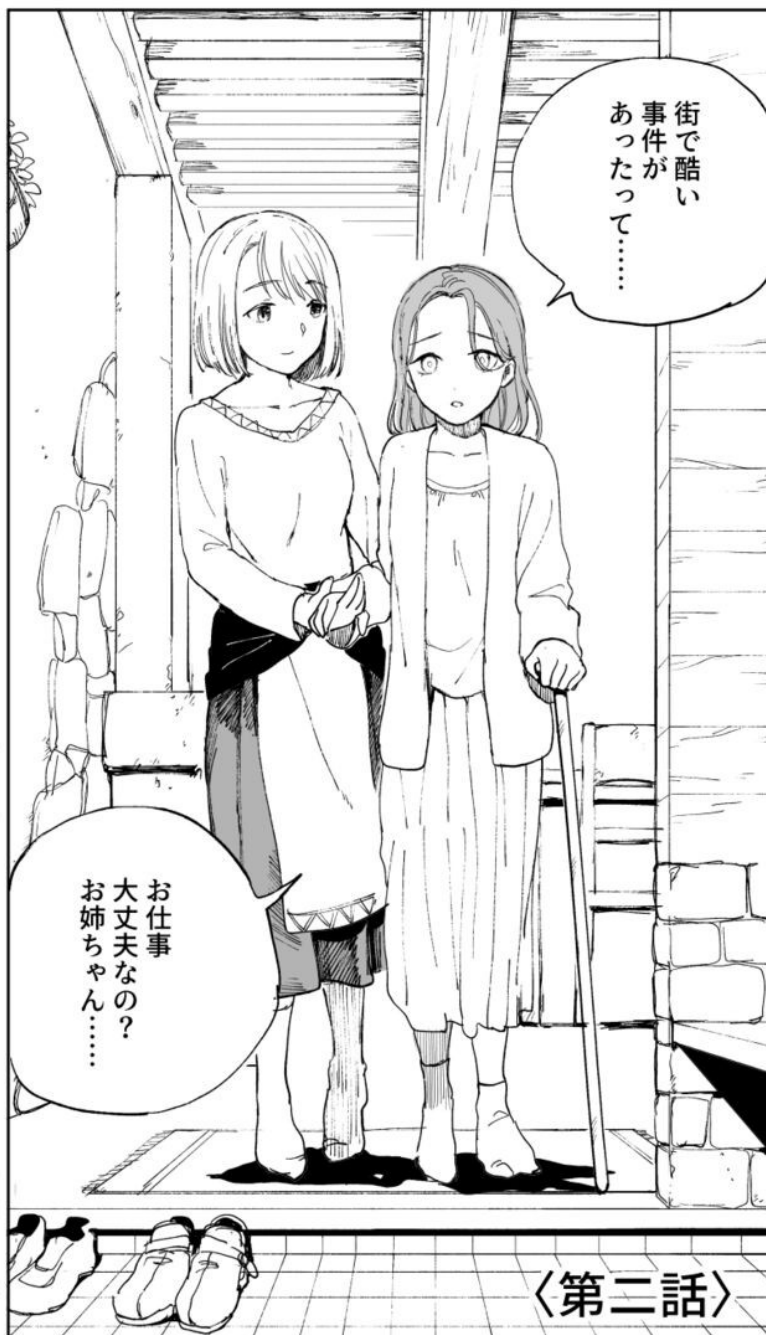
リンドウ(23)

とある事件をきっかけに
保安官を目指した。優秀な成果を上げ
短期間で支部長まで昇進した。
妹とふたりで暮らしている。



殺人鬼の男(32)

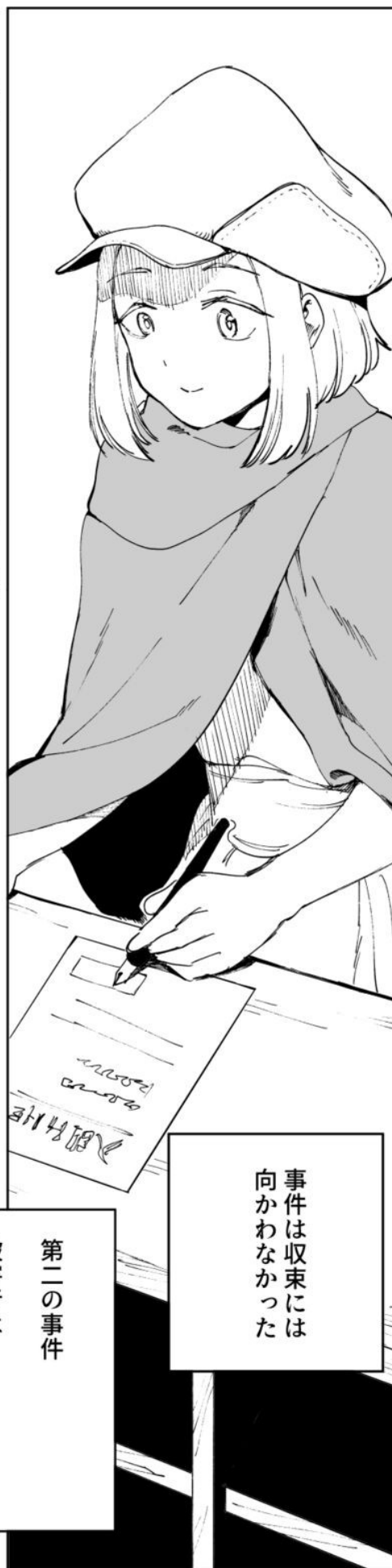
街を騒がす連続殺人事件を起こした犯人。
極悪な快樂殺人者で、
女を殺して犯すことを目的としていた。
保安官により逮捕され
絞首台にて最期を迎える。



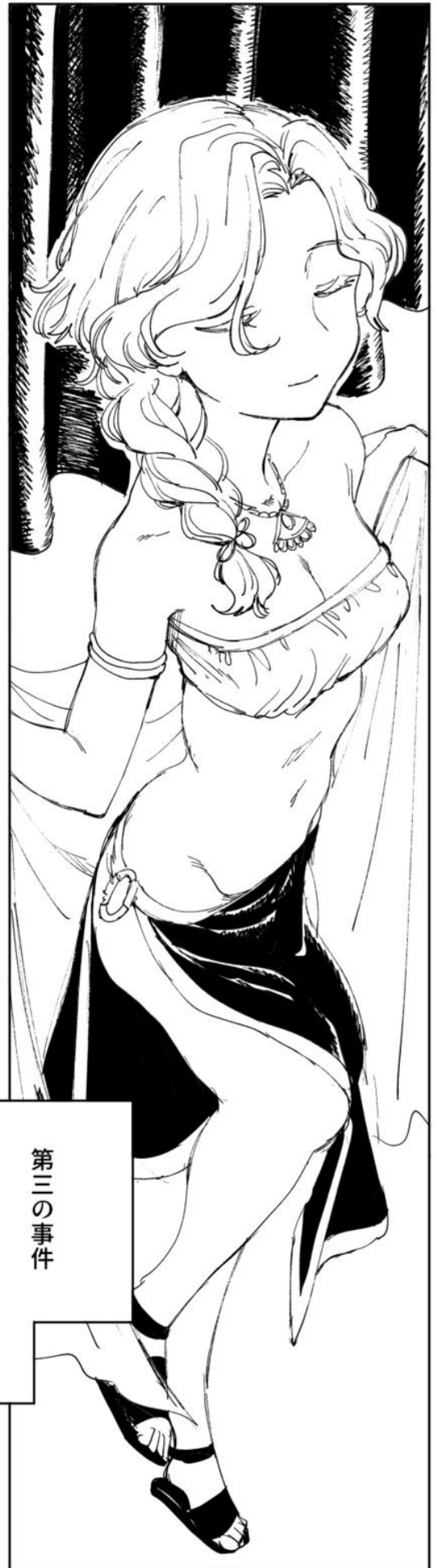


被害者は
旅の流れ者の女性
宿泊していた宿の室内で
遺体が発見された

第二の事件



事件は収束には
向かわなかった



第三の事件

被害者は
街で人気の
踊り子だった



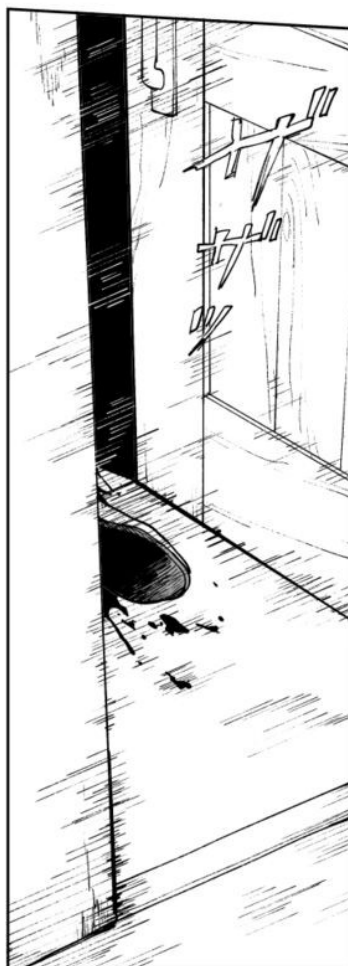
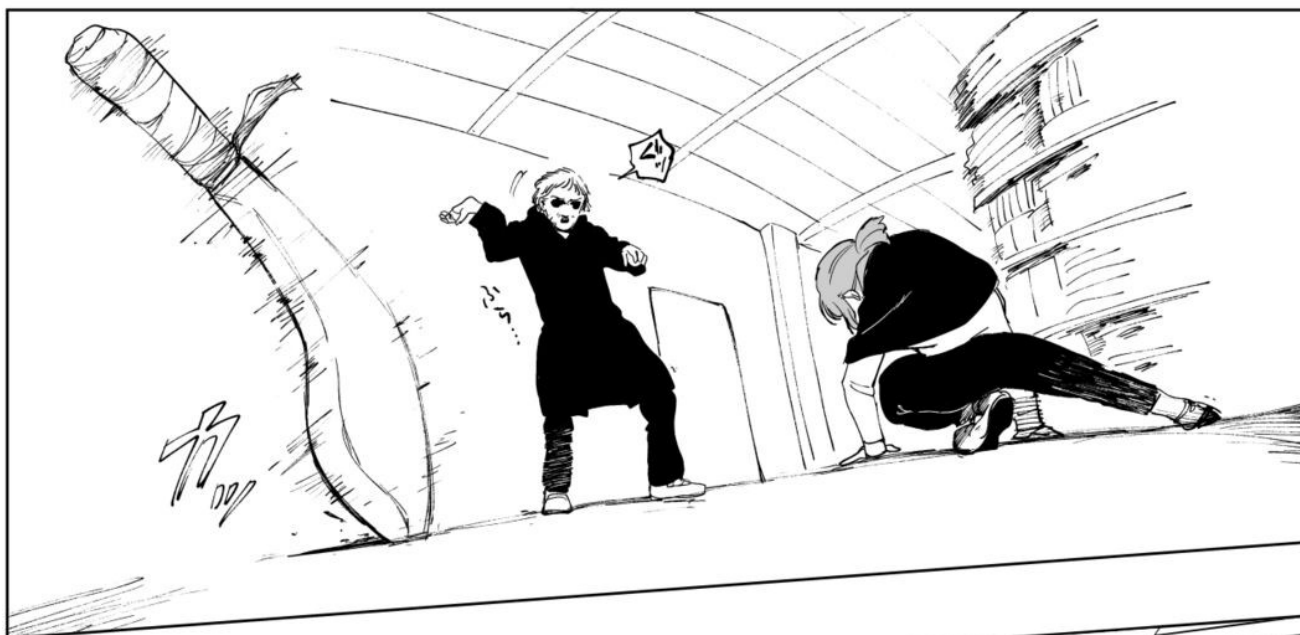
遺体は重ねた両手に
釘を打ち付けられ
建物の壁に
磔にされていた



つづく









第四の事件

事件の犯人と
思われる男が
保安事務所を襲撃した
リンドウによって
撃退されるも
既に二名の犠牲者を
出した後だった

保安官ナヤ

宿直勤務中襲撃に遭い
頸部を深く切られ殉職

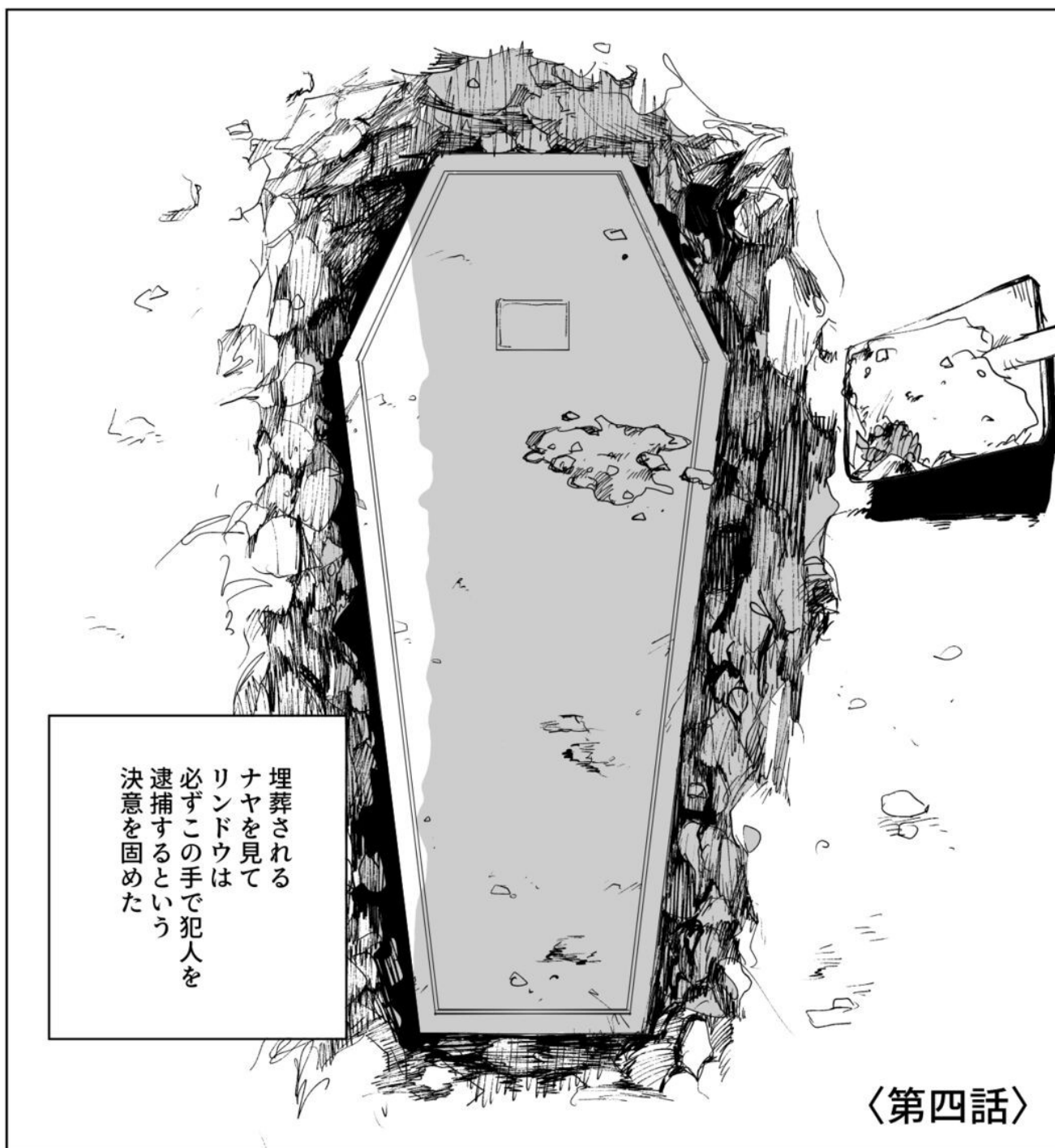
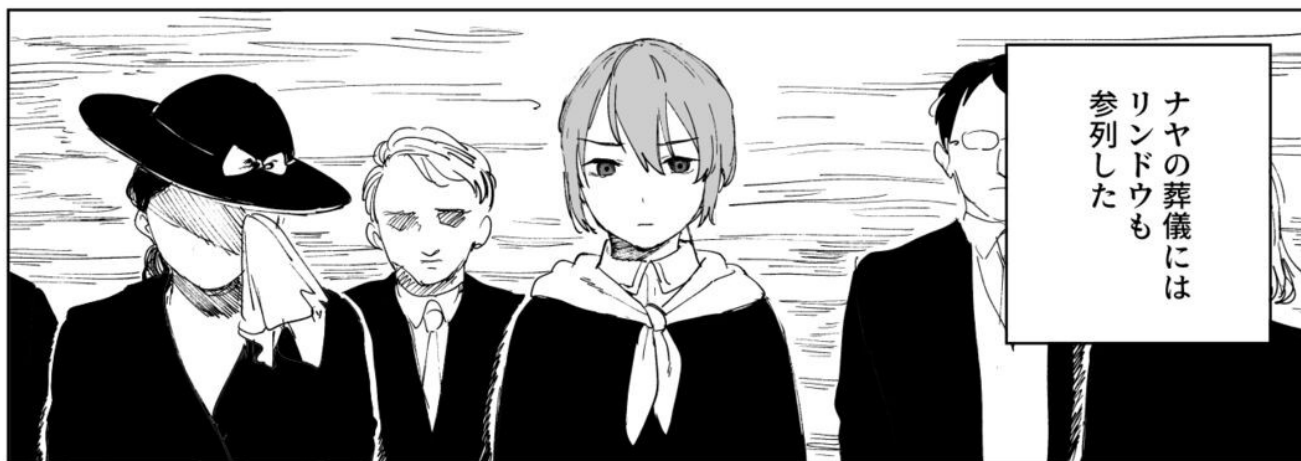


ナヤ(20)

イサルゴ地区の保安官。

真面目で仕事熱心だが、新人なこともあり
周りから見ると危なっかしい面もあった。

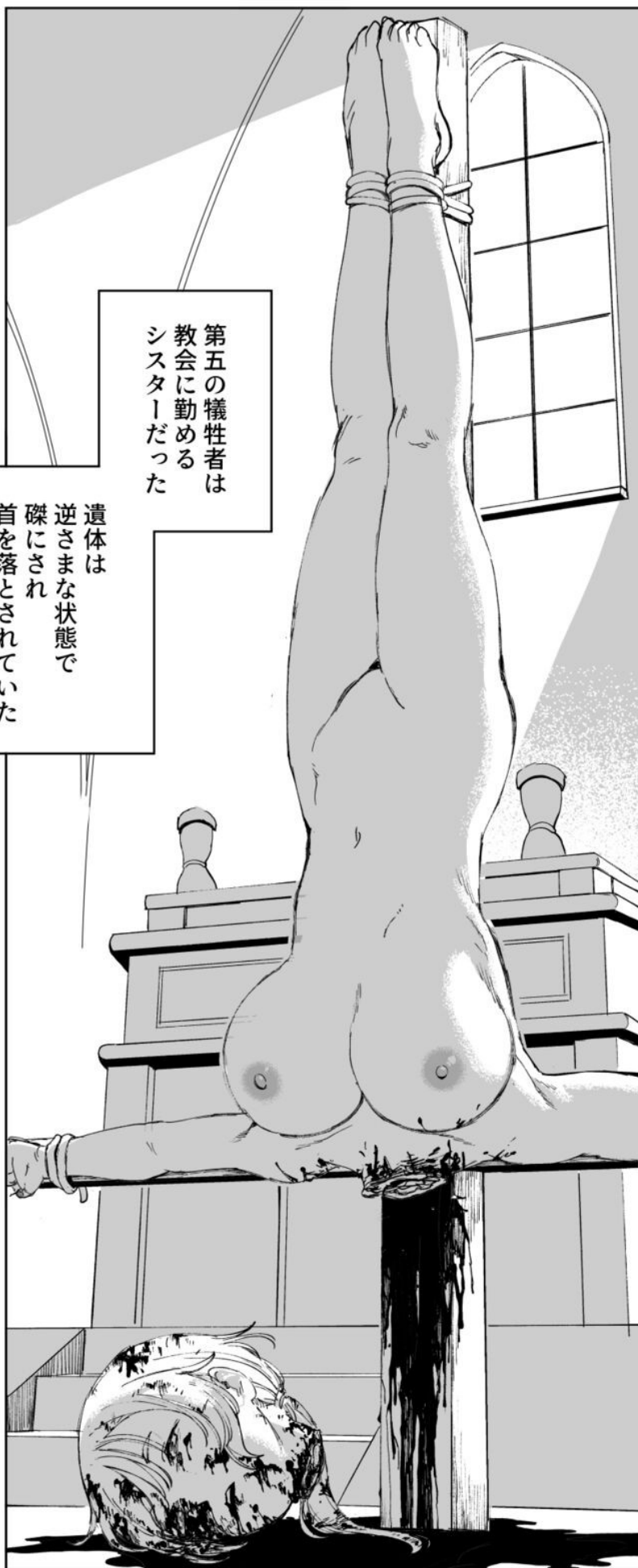
先輩であるリンドウのことを
とても尊敬している。



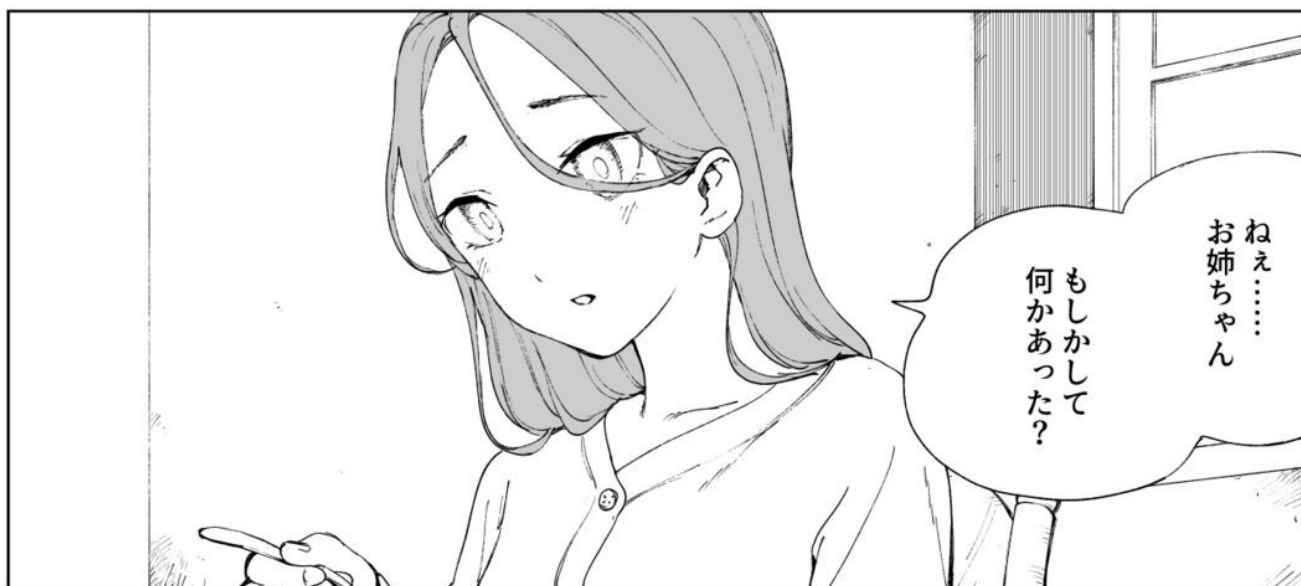
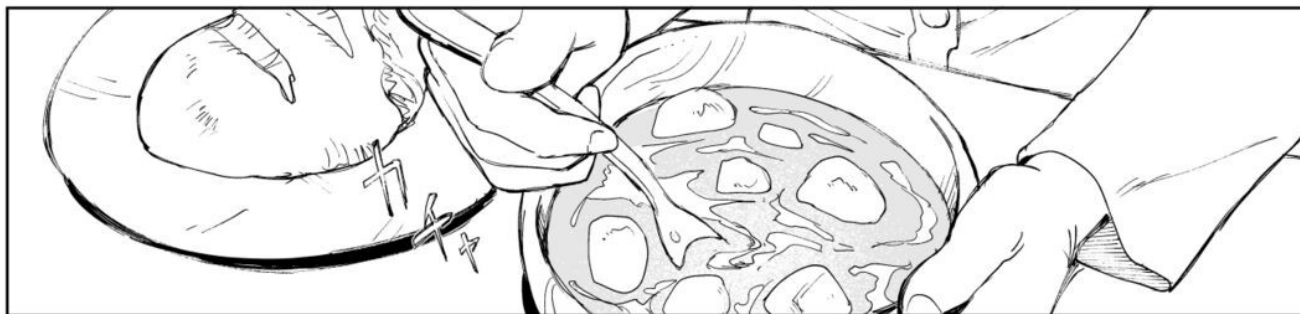


第五の犠牲者は
教会に勤める
シスターだった

遺体は
逆さまな状態で
磔にされ
首を落とされていた



折った右腕も
治っていない
はずなのに……







木に縛り付け
られていたのは
埋葬されたはずの
ナヤの遺体だった



墓は
掘り返され
中は空に
なっていた

ナヤの遺体には
犯された形跡があり
先日の「やり残し」を
済ませたかの
ようだった



暴行によるものか
心因性のものなのか
事件以来アゼナは
ほとんどの視力を失い
治る見込みはなかった



二年前のこと
リンドウの妹
アゼナが
失踪したことが
あった

見つかったのは四日後
痛めつけられた姿で
街のはずれに
捨てられていたところを
保護された

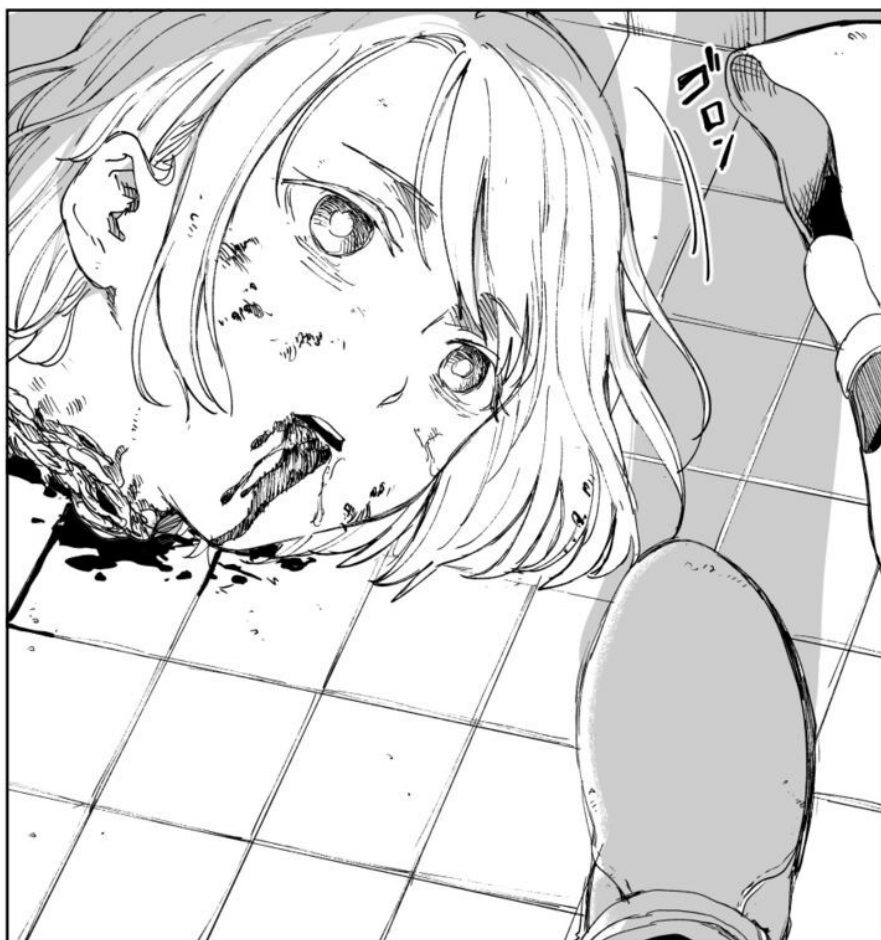
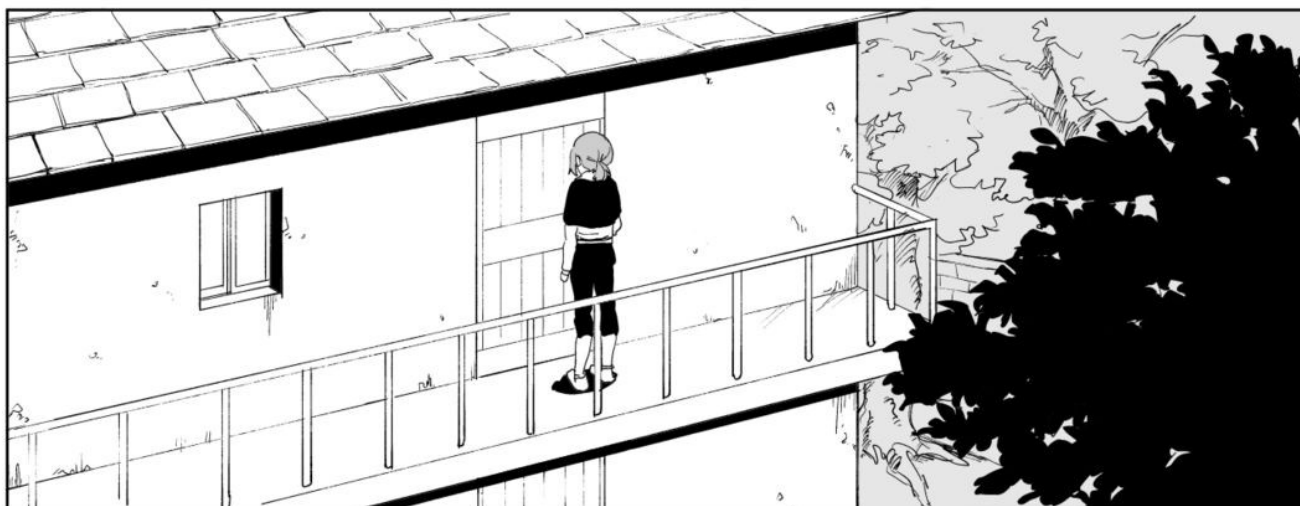
〈第五話〉



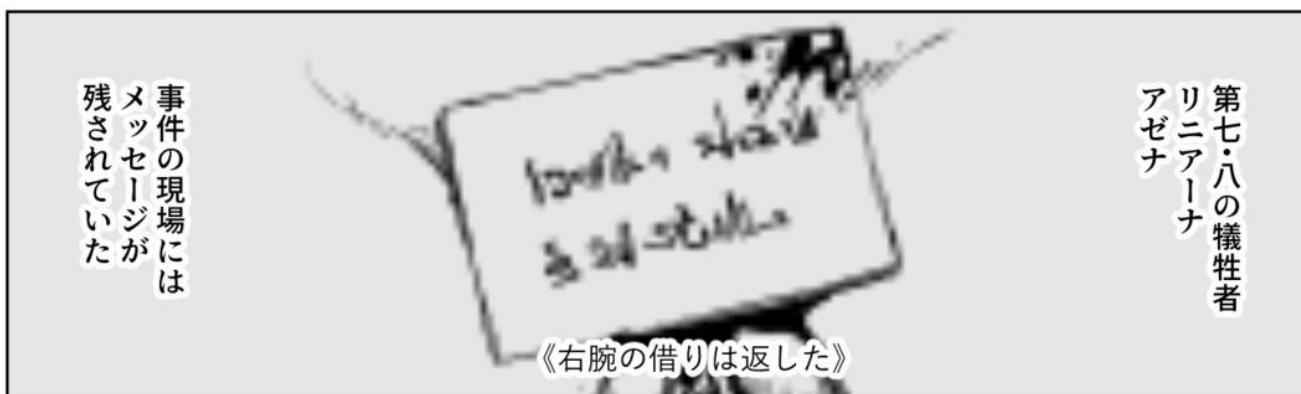
この事件は
リンドウが
保安官を志した
きっかけでも
あった

リンドウが仕事で
家を空ける日中の時間は
介助士として雇い入れた
リニアナにアゼナの
身の回りのことを
任せている





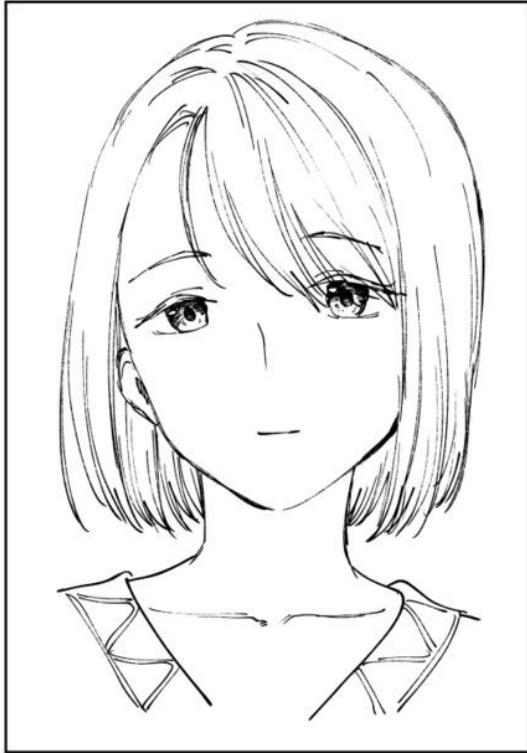




第七・八の犠牲者
リニアーナ
アゼナ

《右腕の借りは返した》

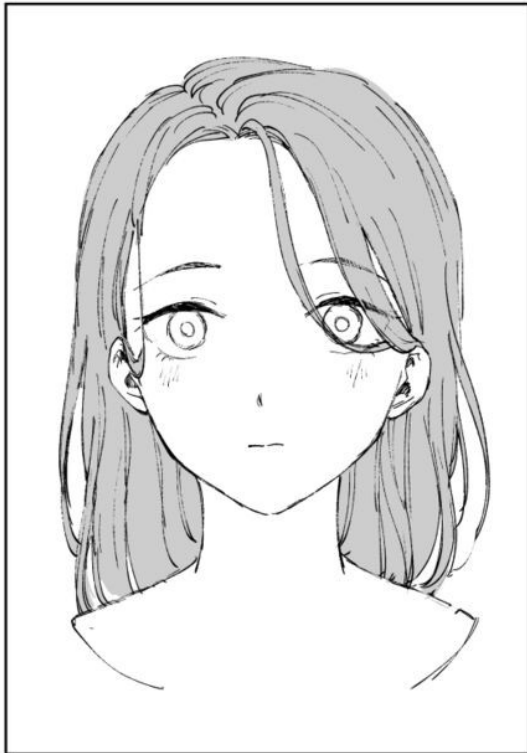
事件の現場には
メッセージが
残されていた



リニアーナ(29)

アゼナの介助士としてリンドウ宅に
いることが多く、二年前の事件後
心を閉ざしがちだったアゼナの
数少ない心を許せる相手だった。

殺人鬼の襲撃に遭い首を切断され死亡。



アゼナ(18)

元より内気な性格だったが、二年前の事件後
さらに人を恐れるようになっていた。
自分が姉の負担になっていることを
心苦しく思っており、危険な仕事に向かう
姉のことを心配している。

首を切断され死亡。
切断された頭部は見つかっていない。

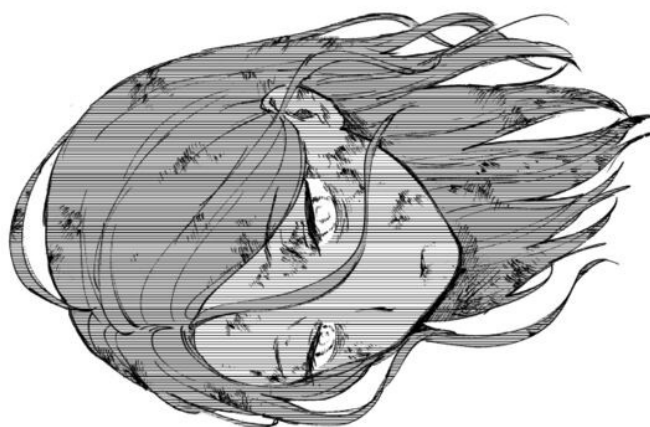
《第六話》



犯人は周到な
男であり
一度負けた相手に
用意もなしに挑む
はずはないと
リンドウは
踏んでいた



犯人の
用意を



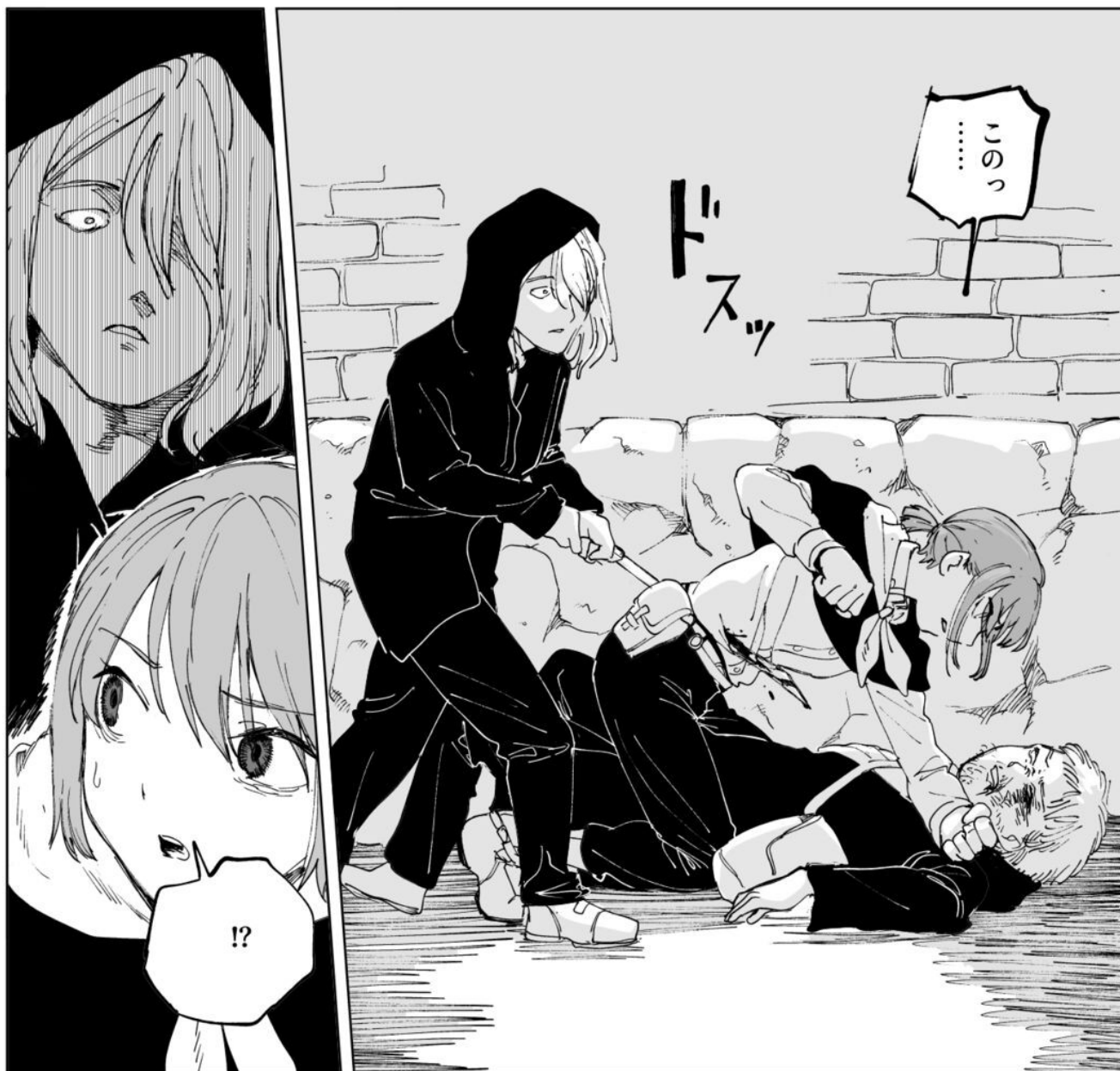
理解する
までに
ひと時

戦いに
勝つための
正しい選択を

選ぶまでに
ひと時





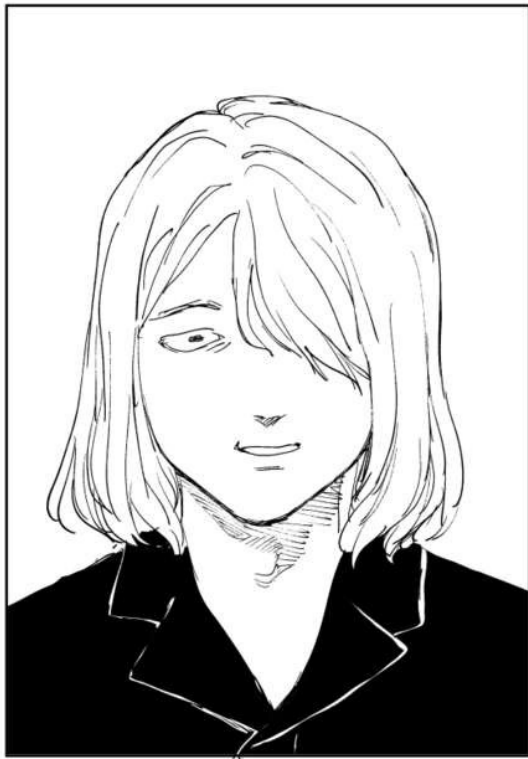






第九の被害者
保安官リンドウ

犯人らに敗北し
殉職



殺人鬼の男(26)

街を騒がす連続殺人事件を起こした犯人。
一年前にこの街に来て普段は大工として
働いていた。ホームレスの男と意気投合し
共に事件を起こす。
保安官によって逮捕され
絞首台にて最期を迎える。



翌朝
リンドウの
遺体が
見つかった

事件の捜査を
主導していた
保安官の死は
人々の大きな
注目を集めた

〈第七話〉



このときイサルゴ地区保安機関が十分に機能していなかった理由はいくつかある
一つは慢性的な人手不足があり、大きな負担を担っていたリンドウを失ったこと
もう一つはナヤの死から生まれた事件に対する及び腰な姿勢が
(一番の実力者でもあった)リンドウが殺害されたことにより一層強まったことである



リンドウの
遺体は
蹂躪された

ずっと
良い女だなんて
思ってたんだよ

俺にも
触らせて
くれ!

ちよっ……
ヤバいつて

連日の事件により
街中に溜まっていた
鬱憤が歪な形で
発露したのだろうか

次!
次俺に
やらせて
くれ!

良いんだよ
みんな
やってん
だから

今まで殺された
人たちの恨みだ!
ギャハハッ

これは犯罪じゃ
ないぞ!
俺たちが
無能な保安官を
裁いてやって
いるんだ!





凌辱は
日が沈んでも
再び昇っても
終わることは
なかった

使い尽くされた
亡骸は
いつしか人々の
興味を失くし
野に捨てられた



とうとう
犯人ふたりは
逮捕され
処刑が行われた
いつかどこかで
このような
結末になることは
彼らも分かっていた
ことだった

最終的な犠牲者は
十三名
街を騒がせた
大事件は幕を
閉じたのだった



リンドウの死を受け
保安機関本部は
事件解決に向け
直ちに増員を送った
これにより
優秀な保安官を集めた
尖鋭部隊が
事件の捜査にあたった

おわり